

第3章

試験評価者の資質向上のための 支援ツールの検討

第3章 試験評価者の資質向上のための支援ツールの検討

1. WEB 支援ツールの検討について

(1) 検討の経緯

介護技能実習評価試験は、全国どこに技能実習生が入国しても、随時、円滑に試験が実施できるよう、全国に万遍なく試験評価者を配置する必要がある。このため、2018年度の試験評価者養成講習開催にあたっては、講習日や開催地は考慮して開催したものの、参加が出来なかった者もあり、都道府県によって参加者にばらつきが生じたことから、より身近なところで受講環境を整える必要がある。試験評価者養成講習のアンケート結果でも「受講日を複数から選択したい」という声が31.5%あがっており、介護現場の勤務形態を考えると「WEBを用いたeラーニング方式」の活用も検討する必要がある。

また、試験評価者の質の維持・向上と、試験結果の均質性を確保するために、映像等を多く取り入れた自己学習を繰り返し行うことは有効である。試験評価者によっては試験時期や回数に差があることから、活動の機会が少ない試験評価者には試験実施前の確認、また活動の機会が多い試験評価者も自己流にならないよう評価の視点を確認する機会は設けたほうがよい。そのための方策として「WEBを用いたeラーニング方式」の活用が検討される。

また、アンケートの結果から、試験評価者養成講習の内容の理解について、試験評価者の大多数が「十分理解できた」または「だいたい理解できた」と回答しているが、「もっと詳しく聞きたかった内容」として「実技試験の評価方法」を挙げた者が55%いた。さらに、試験評価者の視点で再現した動画による模擬評価においても、一部の評価結果に差がでていることから、実技試験の評価方法に関しても対応が必要である。

試験評価者の質の維持・向上については、試験評価者養成講習で修得した内容の復習と、試験実施までの間にさらに理解を深めるために評価の視点等を確認できるフォローアップが必要であり、そのどちらにも「WEBを用いたeラーニング方式」の検討の余地があることから、本調査研究では、どちらも兼ねた支援ツールを開発するため検証を行うこととした。

(2) 検証内容

WEB支援ツール開発のための検証にあたっては、以下の2点について検証することを目的とした。

1. 集合講習と比較した際のWEB支援ツールの有効性
2. 試験評価者へのフォローアップとしてのWEB支援ツールの検討

1. 「集合講習と比較した際のWEB支援ツールの有効性」

今年度は、試験評価者を集合講習方式で養成したが、仮にWEB方式にて養成しようとした場合、集合

講習と同等の理解度が得られるかが重要となる。このため、多岐にわたるカリキュラムについて、それぞれが同等の理解度を得られているか、また、集合講習よりも効率的かつ効果的に修得することができるものがあるかどうか等について検証することとした。

このため WEB 支援ツールの作成に当たっては、その構成は、基本的に集合講習のカリキュラムの内容に沿ったものとしたが、集合講習の受講者のアンケート結果において、「もっと詳しく聞きたかった内容」とされたカリキュラムが「実技試験の評価方法 (52.3%)」であったことを踏まえ、実技試験部分のコンテンツの部分について集合講習での内容をさらに充実させることとした。

2. 試験評価者へのフォローアップとしての WEB 支援ツールの検討

試験評価者は集合講習で学習した後、当日配布されたテキスト及び講習修了後に郵送される「試験評価者 業務実施マニュアル」を確認することで講習内容の復習や、試験前の再確認を行うこととなるが、介護技能実習評価試験は前例がないことから、試験評価者の多くが試験実施にあたっては不安を感じていた。特に、実技試験の評価方法については、講習時の再現動画によりはじめて具体的イメージを持った試験評価者もあり、その点についてはテキストでは不十分である。制度や仕組み等はテキストを読み返すことで知識を再確認、再修得することは可能であるが、試験評価者としての業務の実際や実技試験の評価方法については演者が試験評価者の動き等を再現する動画が有効であり、その復習機能を果たせるか検証することとした。

(3) システムの仕組み

WEB における学習の最大の特徴は、いつでもどこでもアクセスが可能ということであるが、多くの eラーニングはアクセスする時間や場所は問わないものの、1つの単元を学習するにあたってはある程度の時間を要する。しかし、介護現場では休憩中や夜勤等、業務の合間で学習することが多く、短い時間の中でも学習が完結できるかどうかは重要となる。今回は、介護現場の勤務状況を勘案し、試験評価者が日常業務に従事しながら学習時間の自由度が確保できること、また全国に展開する試験評価者の均質性の確保のため双方向での指導等が行えるシステムを検討するため、ClipLine 株式会社の ClipLine というシステムにて検証を行うこととした。

ClipLine は、SECI モデル（暗黙知と形式知のスパイラルを創りだす、知識移転のプロセス）を原案に、「映像音声クリップを利用した自律的学習システム」として特許を取得しており、学習者は当人だけで学習を完結するのではなく、指導者と呼ばれる担当者のレビューにより内容のチェックを受け学習達成度を図ることが可能であり、それ自体が他の学習者の教材コンテンツとして再利用あるいは拡散できる仕組みとなっている。また、ClipLine の特徴は、短尺動画であり、言葉や OJT だけでは伝えきれないノウハウや技術をわかりやすく、正しく伝えることができる。

前述のとおり、試験評価者は公正性、公平性、中立性を保ち、すべての試験評価者が均質に評価を行わなければならない。そのためには、一方的な教育ではなく、試験実施機関としても試験評価者の学習度合いを把握し、また試験評価者の評価にブレが出ないよう学習を試験評価者同士で共有することも重要となることから、ClipLine のシステムを通して検証を行うこととした。

(4) 開発にあたっての留意点

試験評価者養成講習では、再現動画を用いた模擬評価を行っているが、この手法に対する評価として「わかりやすかった」と回答した者が 92.6%と高い評価が得られた。これに対しては、試験評価者の目線での動画を撮影するとしたことで、実際の試験評価場面についてイメージが得やすく、具体的な業務等に対する理解度の向上にも大きく貢献するとの検証結果が得られた。特に、評価中に起こる様々な出来事（中止の判断、利用者の変更、技能実習指導員または受検者が項目を抜かしてしまった場合等）の事例とその対処方法に関しては、集合講習時においても具体的な事例を想定した質問が多く寄せられていたことから、映像化することでイメージの共有化の効果が大きく、より個々の受講者の理解も深まるとの検証結果が得られた。

ただし、製造業における製品の出来栄評価と異なり、介護技能実習評価試験においては、利用者の状態像にあわせた介護行為を確認することとなるため、利用者の状態像のシチュエーションは様々である。利用者の状態像及びこの介護行為そのものを映像化することについては、その再現性が極めて難しくなる。このため実技試験の動画コンテンツの映像化については、試験評価者の評価等に当たってのいわゆるお手本動画映像という誤解を招かないよう、特定の介護行為を単に模した動画を流しての評価演習ではなく、試験評価者の「評価に当たっての立ち位置や視線の向け方、確認すべき着眼点といったものを確認するための動画とすること」や、「評価中にイレギュラー事項が発生した時の対応方法について理解すること」等を主眼として、試験評価者としてのスキルを修得できるようにすることに留意した。

この他にも、検討委員会では、WEB化するにあたっての課題について以下の留意点が示された。

<WEB 支援ツール開発にあたっての留意点>

- ・ WEB で受講する際は、ただ動画を流すだけでは本当に学習しているかが判断できないことから早送りができない仕組み、確認テストを設ける、事務局側で受講者の学習状況を確認する等検討が必要。
- ・ 試験評価者養成講習のアンケート結果では集合講習を望む声も多く、WEB に対する抵抗感も懸念される。集合講習のように最初に概略が把握できるような工夫や、試験評価者の質問・疑問に対応して試験評価者全体にフィードバックできるような双方向のコミュニケーションが図れる仕組みの検討が必要。
- ・ 介護現場の電子機器の状況や勤務形態から、時間の都合に学習できるよう、WEB 支援ツールは PC だけでなくスマートフォンでも学習できたほうがよい。

(5) 構成 (案)

検証にあたっては、既の実施した試験評価者養成講習（集合講習）で用いられたカリキュラムをベースとして、受講者アンケート結果や質問受付票における質問内容などを踏まえつつ、WEB 支援ツールにおけるカリキュラムを新たに構成した。具体的な変更点等は以下のとおりである。

① 大項目について

これまでは実技試験の評価を中心としていたが、試験業務を正しく理解してもらうためにも、学科試験の項目を新規に作成し、行う業務を明確化した。また、模擬評価をはじめ何かあったときの対応等映像を増やしたことから、項目ごとのボリュームを均質にするため、模擬評価については新たに項目を立てることとした。

1. 外国人技能実習制度の理解
2. 介護技能実習評価試験の仕組み
3. 試験評価者の役割と業務
4. 実技試験の評価方法
5. 試験実施機関と試験評価者の関係



1. 外国人技能実習制度の理解
2. 介護技能実習評価試験の仕組み
3. 試験評価者の役割と業務
4. 学科試験の実施方法
5. 実技試験の評価方法
6. 初級 実技試験 模擬評価
7. 試験実施機関と試験評価者の関係

② 中項目・小項目について

大項目の構成変更も踏まえ、またアンケート結果や質問受付票の内容を確認し、中項目・小項目も精査した。実際に講師が説明している中で、すでに前出のことを繰り返し説明していたり、詳細は後で説明するという場面がいくつかあったことから、内容の重複がないように整理している。

また、質問受付票で質問の多かった項目をさらに解説し、映像化したことにより、項目は以前より増えている。

<新規追加した部分>

- ・ B-1 「我が国と世界の高齢化の状況」

制度をより正しく理解してもらうため、背景と介護職として入国する外国人の制度の違いを説明

- ・ F-3 「例外事項への対処方法」

試験評価者養成講習の質問受付票にて質問が多かったため

- ・ G-1 「STEP 1」

模擬評価の課題を追加

- ・ G-2 「STEP 2」

結果に差異がでた評価基準の考え方を映像化して追加

<順番を入れ替えた部分>

- ・ B-1-③ EPA、在留資格介護、技能実習の制度の違いを最初の導入に移動
- ・ C-1-③ 利用者の状態像を確認するという内容を、評価するための「利用者票」にて説明するのではなく、介護技能実習評価試験の仕組みに移動。
- ・ D-2-①② 申込の手続きの流れと関係者の役割が、重複して登場していたため、業務に関するものとしてまとめた。
- ・ E-1-③、F-1-④ 試験を中止する場合を学科、実技それぞれの部分で説明。

③映像の種類について

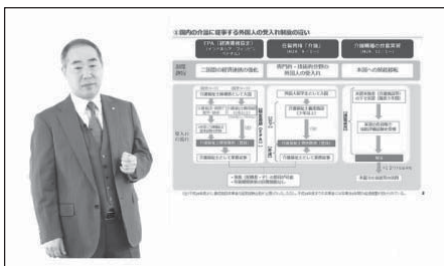
小項目はひとつひとつが短尺の動画となっているが、その映像に関しては、内容により学習者が飽きないよう変化をつけることとした。テロップやナレーションの「資料映像」が基本ではあるが、特に、試験評価者が実際の試験時にどのような動きをするのか、イレギュラーへの対応等は、具体的イメージがしやすいよう試験評価の「実務再現映像」とした。また、我が国と世界の高齢化の状況や介護技能実習評価試験の仕組み等、その考え方や理念を理解してもらいたいものについては、講師が実際に講義するような形での「講師映像」とした。

<映像の種類>

- ・ 講師映像 … 講師が登場し、資料を解説する動画 (★)
- ・ 試験評価の実務再現映像 … 試験評価者の動き等を再現した動画 (●)
- ・ 資料映像 … 資料をテロップやナレーションで解説する動画 (◆)

(参考)

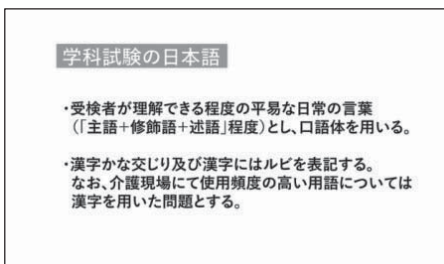
・ 講師映像



・ 試験評価の実務実務再現映像



・ 資料映像



④試験評価者養成講習（集合講習）とWEB支援ツールの構成比較表

WEB支援ツールに新規追加した部分
 順番を入れ替えた部分

試験評価者養成講習（集合講習）の構成			
大項目	中項目	小項目	時間
最初のアナウンス	【1】挨拶	①講習の目的	10分
	【2】注意事項	①会場の注意事項 ②修了要件	
1. 外国人技能実習制度の理解	【1】外国人技能実習制度の理解	①技能実習制度の目的	40分
		②技能実習制度全体の概要（技能実習の流れ、受け入れ機関別の違い、在留資格）	
		③技能実習評価試験の位置づけ	
2. 介護技能実習評価試験の仕組み	【2】外国人技能実習制度の介護職について	①国内の介護に従事する外国人の受入れ制度の違い	40分
		②介護職種が追加となった背景	
		③介護技能実習における固有要件の概要	
3. 介護技能実習評価試験の仕組み	【3】介護技能実習評価試験の内容	①試験の構成について	40分
		②試験の受検資格と目標レベル	
		③試験の実施方法	
4. 介護技能実習評価試験の仕組み	【4】各級試験内容	①学科試験について	40分
		②実技試験について	
		③関係者の役割 ④手続の流れ ⑤試験の申込方法 ⑥試験結果の通知 参考：受検申請に必要な書類	

WEB支援ツールの構成				
大項目 (カテゴリ)	中項目 (サブカテゴリ)	小項目 (クリップ)	映像 時間	
【A】はじめに	【1】はじめに	資料：はじめに	◎	
		資料：WEB支援ツールの構成	◎	
【B】外国人技能実習制度の理解	【1】我が国と世界の高齢化の状況	①我が国の高齢化の状況	★	
		②世界の高齢化の状況	★	
		③我が国の外国人労働者と外国人介護職員の状況	★	
	【2】外国人技能実習制度の目的と概要	【1】はじめに	①外国人技能実習制度の目的	◆
			②技能実習生受け入れの仕組み	◆
			③技能実習生の入国から帰国までの流れ	◆
			参考：技能実習制度 移行対象職種・作業一覧	◎
	【3】外国人技能実習制度に介護職種が追加になった背景	【1】はじめに	①技能実習制度の見直しについて	◆
			参考：技能実習法の概要	◎
			②介護職種の追加について	★
【4】介護職種における固有要件	【1】はじめに	③職種追加の流れについて	◆	
		参考：介護固有要件の概要	◎	
		①技能実習生について	◆	
		②技能実習を行わせる体制について	◆	
【5】介護職種における固有要件	【1】はじめに	③介護職種における入国後講習について	◆	
		①試験の構成と各級の目標レベル	◆	
		②試験の実施方法	★	
【6】介護技能実習評価試験の仕組み	【1】はじめに	③利用者の状態像の確認	◆	
		①学科試験の範囲と内容	◆	
		②出題形式と合格基準	◆	
【7】介護技能実習評価試験の仕組み	【2】実技試験	参考：学科試験練習問題（イメージ）	◎	
		①実技試験の範囲と内容	◆	
		②試験課題の構成	◆	
		③合格基準、実施方法	◆	
【8】介護技能実習評価試験の仕組み	【3】実技試験	④初級実技試験時の特徴	★	

3. 試験評価者の役割と業務	【1】 試験評価者の役割	①試験評価者の資質と要件	15分
		②試験評価者に求められる要件	
		③受検者に接する際に心がけること	
【2】 試験評価者の業務	①試験前（日程調整）	45分	
	②試験当日（試験の進め方）		
	③試験当日（報告書の記載方法）		
4. 実技試験の評価方法	【1】 利用者の選定	①実技試験の「利用者票」の位置づけと役割	15分
		②利用者票の役割	
		③利用者票の見方	
【2】 実技試験の評価方法について	①評価の方法	45分	
	②各級の違い		
	③評価票の使い方		
【模擬評価】	①座位での上衣の着脱の介助	20分	
	②車いすでの移動の介助		

【D】 試験評価者の役割と業務	【1】 試験評価者に求められる役割と倫理観	①試験評価者に求められる資質	★	2:05	
		②試験評価者として順守すること	◆	2:24	
		③受検者への接し方	◆	2:10	
	【2】 試験前の業務について（調整窓口担当者）	①試験の関係者の役割	◆	3:02	
		②試験の申込の流れ	◆	3:42	
		③事前の日程調整について	◆	3:32	
		①試験評価者の1日の流れ	●	3:09	
		②窓口担当者との挨拶	●	1:10	
		③試験キットの確認	◆	1:14	
	【3】 試験当日の業務について（試験評価者）	④技能実習履歴証明書の確認	●	1:45	
⑤利用者票の確認		◆	0:28		
⑥学科試験場所等の確認		◆	1:31		
⑦受検者（技能実習指導員）との挨拶、受検者の確認		●	1:30		
【E】 学科試験の実施方法	【1】 学科試験の実施方法	⑧試験実施報告書の作成	●	2:06	
		⑨挨拶・退出	●	0:46	
	【1】 実技試験の実施方法	①学科試験の流れ	◆	2:13	
		②遅刻者、途中退出者への対応	◆	1:46	
		③中止事項	◆	2:06	
	【F】 実技試験の実施方法	【2】 評価の方法	①実技試験の流れ	◆	2:08
			②実技試験時に必要なもの	◆	2:40
			③利用者の選定	◆	2:39
			④中止事項	◆	2:42
	【3】 例外事項への対処方法	①評価の方法	◆	2:10	
②時間の考え方		◆	1:39		
③評価票の使い方（B票）		◆	2:44		
④評価票の使い方（A票）		◆	1:43		
①利用者の体調変化により、試験の継続が困難な場合		●	0:44		
②利用者から別の介助の申し出があった場合		●	2:02		
【G】 初級実技試験 模擬評価	【1】 STEP 1	③評価項目が順番通りに行われない場合	●	0:54	
		④試験課題開始前に、危険を予測した場合	●	0:40	
		⑤試験課題実施中に、危険を予測した場合	●	0:42	
		①STEP1をはじめの前に	◆	3:37	
		②座位での上衣の着脱の介助	●	4:32	
		③車いすでの移動の介助	●	3:04	
④事故時の対応※判断等試験	●	1:38			
⑤車いすの点検	●	2:08			
⑥適切な手洗い	●	1:28			

【3】試験を中止する 場合	①学科試験の試験中止等について	10分
	②実技試験の試験中止等について ③試験実施報告書への記載方法	
5. 試験実施機 関と試験評価 者の関係 最後に	【1】試験評価者の登 録と任命	30分
	【1】提出書類の説明	20分
	①提出書類の説明と記入時間	

【G】初級 実 技試験 模擬評 価	①STEP2をはじめの前に	◆	3:47
	②評価基準 1-1	●	2:30
	③評価基準 1-2	●	1:21
	④評価基準 1-3	●	1:48
	⑤評価基準 2-1	●	0:53
	⑥評価基準 2-2	●	0:56
	⑦判断に迷った時の対応方法	●	1:30
【H】試験実施 機関と試験評価 者の関係	①試験評価者の登録	◆	1:44
	②試験評価者の任命	◆	4:37
	参考：業務委託料と旅費	◎	

集合講習：合計時間 290分（約 4 時間 50 分） ※休憩を入れた場合の全体の時間数は、約 380 分
WEB 支援ツール：合計時間 133 分 25 秒（2 時間 13 分 25 秒）

2. 調査3：試験評価者の資質向上のための支援ツールの開発に伴う検証

すでに前述のように、本検証の目的は、「①集合講習と比較した際のWEB支援ツールの有効性」と「②試験評価者へのフォローアップとしてのWEB支援ツールの検討」であるが、検証にあたっては、今年度の試験評価者に実際に使用・学習してもらうことで、集合講習と比較した際のWEBの有効性、反復・復習としての有効であるかについて検証を行った。

(1) 検証対象、検証方法

検証は、第1弾と第2弾の2回実施した。

<第1弾検証>

検証対象：介護技能実習評価試験の試験評価者 20名

※とりわけ技能実習生の入国時期が早い都道府県を対象として依頼

検証期間：2019年1月15日～2019年1月25日

検証方法：WEB支援ツールの利用

回答方法：アンケートフォームより回答

回答率：90.0%（20名中18名が最後まで実施）

<第2弾検証>

検証対象：介護技能実習評価試験の試験評価者 100名

※松山会場を除く2018年度の試験評価者444名に依頼

検証期間：2019年2月4日～2019年2月22日

検証方法：WEB支援ツールの利用

回答方法：アンケートフォームより回答

回答率：70.0%（100名中70名）

※模擬評価については64.0%（100名中64名）

(2) 第1弾検証 調査結果

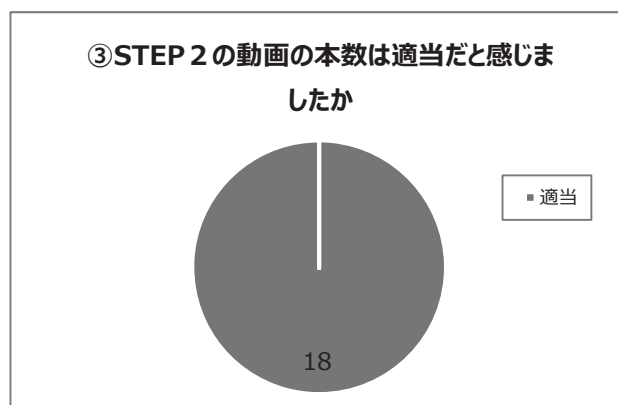
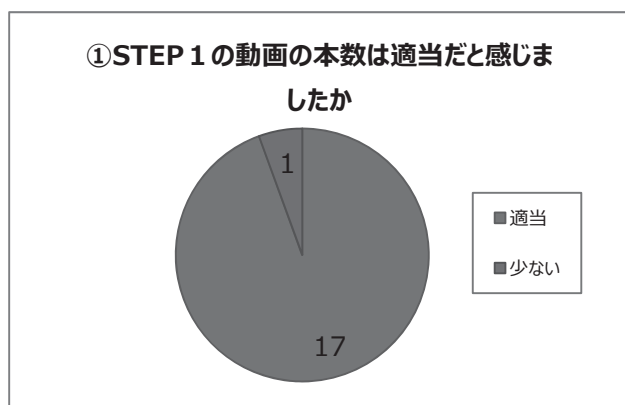
第1弾検証では、WEB支援ツールのうち、特に今回内容の充実化を図った「実技試験の評価方法」の部分を一部の試験評価者に学習してもらい、アンケートを実施した。その内容を踏まえ、第2弾検証にあたることとした。

< 第 1 弾検証の学習部分 >

大項目	中項目	小項目	映像種類	時間
【G】初級 実技試験 模擬評価	【1】STEP 1	①STEP1 をはじめる前に	◆	3:37
		②座位での上位の着脱の介助	●	4:32
		③車いすでの移動の介助	●	3:04
		④事故時の対応※判断等試験	●	1:38
		⑤車いすの点検	●	2:08
		⑥適切な手洗い	●	1:28
	【2】STEP 2	①STEP2 をはじめる前に	◆	3:47
		②評価基準 1-1	●	2:30
		③評価基準 1-2	●	1:21
		④評価基準 1-3	●	1:48
		⑤評価基準 2-1	●	0:53
		⑥評価基準 2-2	●	0:56
		⑦判断に迷った時の対応方法	●	1:30

①動画の本数について

質問受付票等の意見を踏まえ、WEB 支援ツールでは、実技試験の模擬評価の本数（STEP 1）と評価基準の考え方に関する動画の本数（STEP 2）を増やしている。STEP 1 の動画の本数に関しては 1 名が「少ない」と回答しているが、多くの試験評価者は「適当」と回答した。



②内容について

動画の内容については自由記述で回答をしてもらった。STEP 1、STEP 2 ともに動画の内容というよりは、評価方法の使用法や最初の説明が分かりづらいという回答があった。

また、集合講習と比較して試験実施への不安は解消されたかについては、「一度視聴だけでは解消されたとは言えないが、繰り返し見ることで軽減される」「何度か見直ししたい」「多くの事例を確認したい」という声が挙がっている。

なお、第 1 弾にて評価基準の考え方を映像に示したことがわかりやすいという回答を得られていることから、評価の均質性に効果的であると考え、集合講習と同様に模擬評価を行う第 2 弾に向けて、STEP 1 と STEP 2 の入れ替えを行った。他にも、第 1 弾でのナレーションは簡易的に入れたこともあり少し早い口調で説明していたが、第 2 弾ではスピードを落としている。

(3) 第2弾検証 調査結果

第1弾の検証結果も参考にしながら、第2弾ではWEB支援ツールの全範囲を試験評価者に受講してもらい検証を実施した。なお、集合講習と同様に、模擬評価による動画演習とアンケートも実施した。

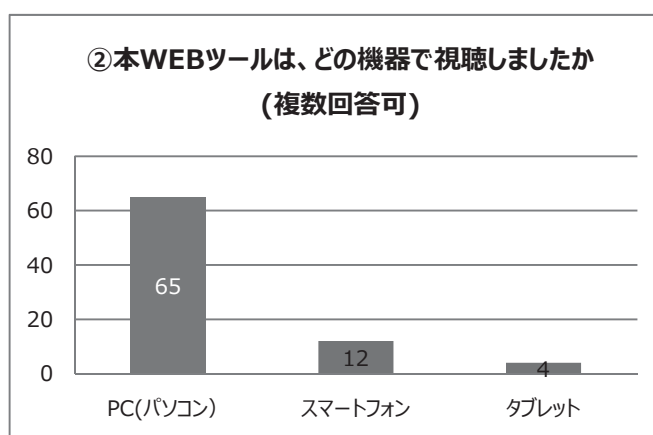
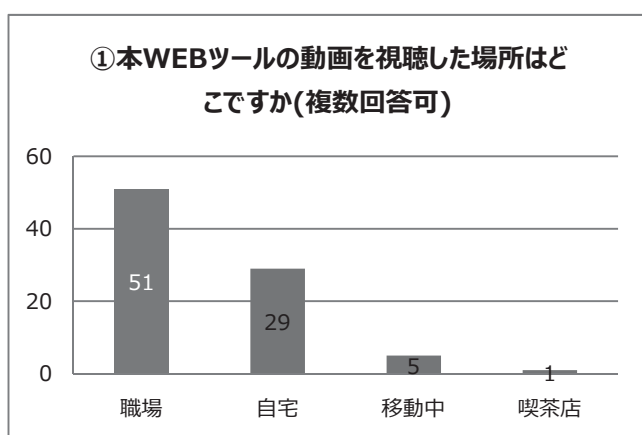
<第2弾検証の学習部分>

WEB支援ツールの構成				
カテゴリ	サブカテゴリ	クリップ	映像種類	
【A】はじめに	【1】はじめに	資料：はじめに		
		資料：WEB支援ツールの構成		
【B】外国人技能実習制度の理解	【1】我が国と世界の高齢化の状況	【1】我が国の高齢化の状況	★講師映像	
		【2】世界の高齢化の状況	★講師映像	
		【3】我が国の外国人労働者と外国人介護職員	★講師映像	
	【2】外国人技能実習制度の目的と概要	【1】外国人技能実習制度の目的	◆資料映像	
		【2】技能実習生受け入れの仕組み	◆資料映像	
		【3】技能実習生の入国から帰国まで	◆資料映像	
		【4】技能実習制度 移行対象職種・作業一覧	◎PDF	
	【3】外国人技能実習制度に介護職種が追加になった背景	【1】技能実習制度の見直しについて	◆資料映像	
		【2】技能実習法の概要	◎PDF	
		【3】介護職種の追加について	★講師映像	
		【4】職種追加の流れについて	◆資料映像	
	【4】介護職種における固有要件	【1】介護固有要件の概要	◎PDF	
		【2】技能実習生について	◆資料映像	
		【3】技能実習を行わせる体制について	◆資料映像	
		【4】介護職種における入国後講習について	◆資料映像	
	【C】介護技能実習評価試験の仕組み	【1】介護技能実習評価試験の仕組み	【1】試験の構成と各級の目標レベル	◆資料映像
【2】試験の実施方法			★講師映像	
【3】利用者の状態像の確認			★講師映像	
【2】学科試験		【1】学科試験の範囲と内容	◆資料映像	
		【2】出題形式と合格基準	◆資料映像	
		【3】学科試験練習問題（イメージ）	◎PDF	
【3】実技試験		【1】実技試験の範囲と内容	◆資料映像	
		【2】試験課題の構成	◆資料映像	
		【3】合格基準、実施方法	◆資料映像	
	【4】初級実技試験時の特徴	★講師映像		
【D】試験評価者の役割と業務	【1】試験評価者に求められる役割と倫理観	【1】試験評価者に求められる資質	★講師映像	
		【2】試験評価者として順守すること	◆資料映像	
		【3】受検者への接し方	◆資料映像	
	【2】試験前の業務について（調整窓口担当者）	【1】試験の関係者の役割	◆資料映像	
		【2】試験の申込の流れ	◆資料映像	
		【3】事前の日程調整について	◆資料映像	
	【3】試験当日の業務について（試験評価者）	【1】試験評価者の1日の流れ	●再現映像	
		【2】窓口担当者との挨拶	●再現映像	
		【3】試験キットの確認	●再現映像 ◆資料映像	
		【4】技能実習履歴証明書の確認	◆資料映像	
		【5】利用者票の確認	●再現映像	
		【6】学科試験場所等の確認	●再現映像	
		【7】受検者（技能実習指導員）との挨拶、受検者の確認	●再現映像	
		【8】試験実施報告書の作成	●再現映像 ◆資料映像	
		【9】挨拶・退出	●再現映像	
	【E】学科試験の実施方法	【1】学科試験の実施方法	【1】学科試験の流れ	◆資料映像
			【2】遅刻者、途中退出者への対応	◆資料映像
			【3】中止事項	◆資料映像
【F】実技試験の実施方法	【1】実技試験の実施方法	【1】実技試験の流れ	◆資料映像	
		【2】実技試験時に必要なもの	◆資料映像	
		【3】利用者の選定	◆資料映像	
		【4】中止事項	◆資料映像	

	【2】評価の方法	【1】評価の方法	◆資料映像
		【2】時間の考え方	◆資料映像
		【3】評価票の使い方（B票）	◆資料映像
		【4】評価票の使い方（A票）	◆資料映像
	【3】例外事項への対処方法	【1】利用者の体調変化により、試験の継続が困難な場合	●再現映像
		【2】利用者から別の介助の申し出があった場合	●再現映像
		【3】評価項目が順番通りに行われない場合	●再現映像
		【4】試験課題開始前に、危険を予測した場合	●再現映像
		【5】試験課題実施中に、危険を予測した場合	●再現映像
	【G】初級 実技試験 模擬評価	【1】STEP 1（評価基準の考え方）	【1】STEP 1をはじめる前に
【2】評価基準 1-1			●再現映像
【3】評価基準 1-2			●再現映像
【4】評価基準 1-3			●再現映像
【5】評価基準 2-1			●再現映像
【6】評価基準 2-2			●再現映像
【7】判断に迷った時の対応方法			●再現映像
【2】STEP 2（模擬評価）		【1】STEP 2をはじめる前に	◆資料映像
		【2】座位での上位の着脱の介助	●再現映像
		【3】車いすでの移動の介助	●再現映像
		【4】事故時の対応※判断等試験	●再現映像
		【5】車いすの点検	●再現映像
		【6】適切な手洗い	●再現映像
		アンケート（座位での上衣の着脱の介助の評価結果提出）	
アンケート（車いすでの移動の介助の評価結果提出）			
【H】試験実施機関と試験 評価者の関係	【1】試験評価者の登録と任命	【1】試験評価者の登録	◆資料映像
		【2】試験評価者の任命	◆資料映像
		【3】業務委託料と旅費	◎PDF
アンケート	アンケート	アンケート	

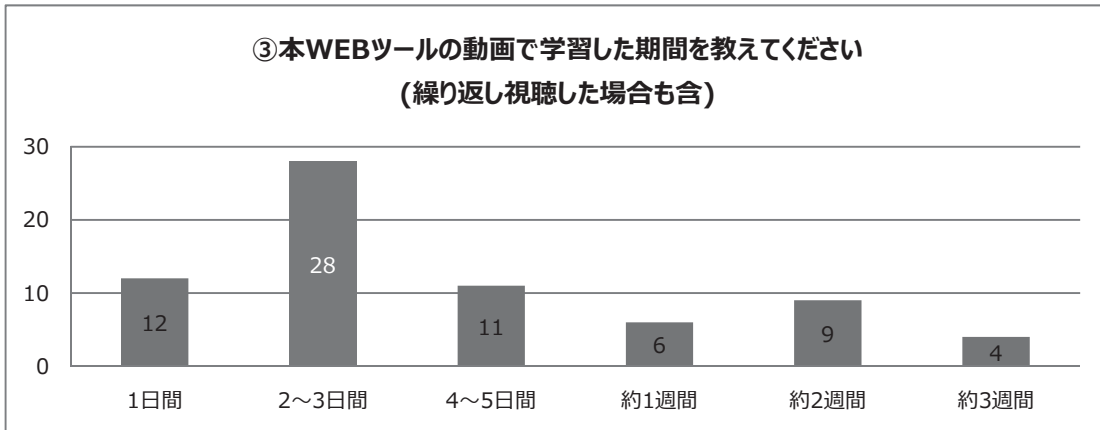
①利用環境

WEB 支援ツールを使って学習した場所については、70 名中 51 名（72.6%）が「職場」と回答しており、それと比例してか、使用した機器についても 70 名中 65 名（92.9%）がパソコンと回答している。



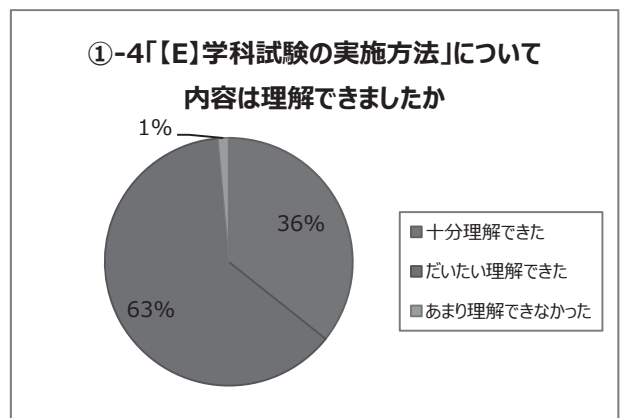
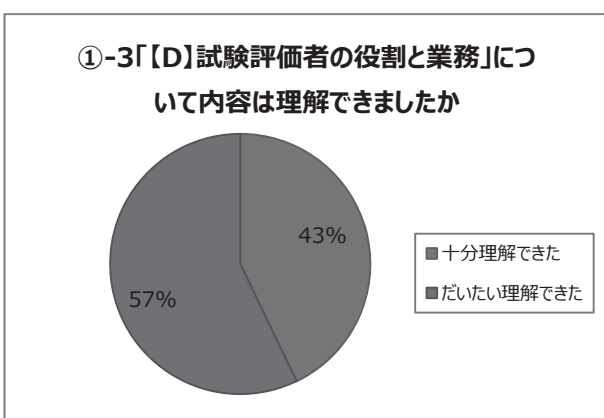
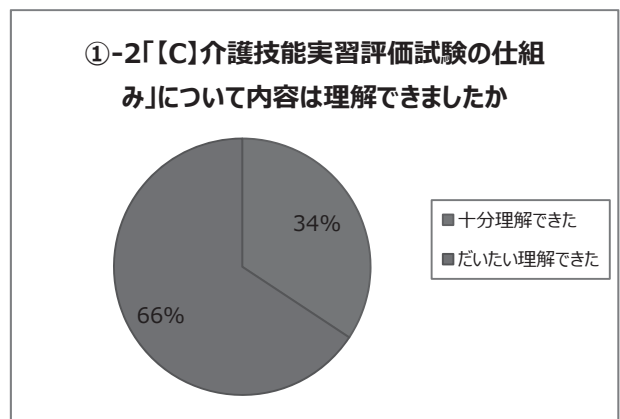
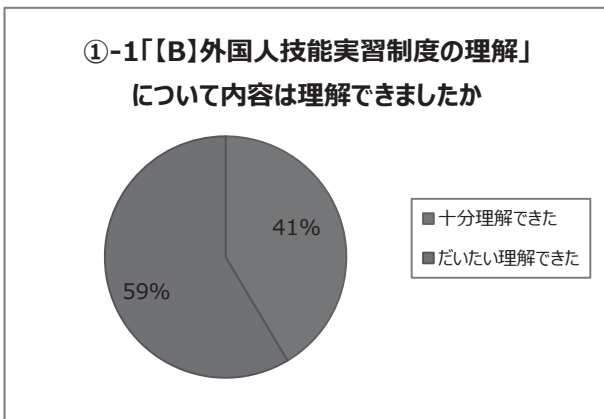
また、WEB 支援ツールは、最初から最後まで続けて見た場合、約 2 時間半の時間を要するが、実際の学習期間としては、「2～3 日」と回答する者が 70 名中 28 名（40.0%）であり、ほとんどが 2 日以上の時間をかけていることになる。（70 名中 58 名（82.9%））集合講習は 1 日の拘束に対し、WEB では学習期間は長くなるものの、学習したいときに学習したいコンテンツのみを確認することにより、働き方に

あわせた学習が可能となる。この件については、委員から、あえて分けて学習したというよりも、勤務の都合上、分けなければ学習が困難という意見も挙がった。

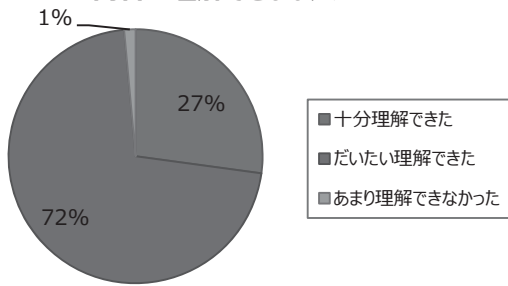


②講習の理解度について

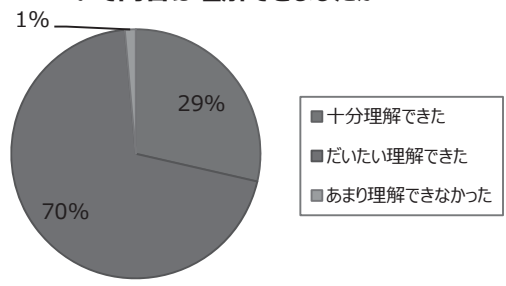
WEB 支援ツールの内容の理解については、試験評価者の大多数が「十分理解できた」または「だいたい理解できた」と回答。集合講習と変わらず、試験評価者に修得してもらいたい内容は伝えることができていると言える。



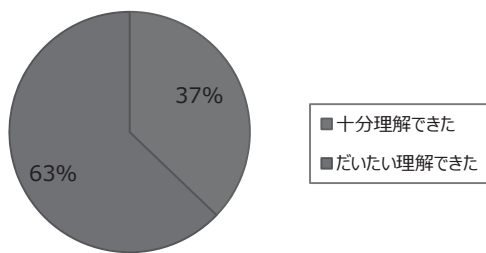
①-5「[F]実技試験の実施方法」について
内容は理解できましたか



①-6「[G]初級 実技試験 模擬評価」に
ついて内容は理解できましたか



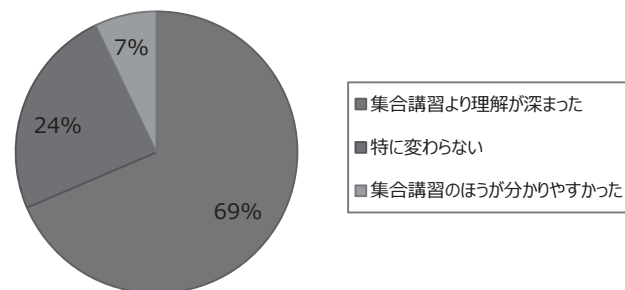
①-7「[H]試験実施機関と試験評価者の
関係」について内容は理解できましたか



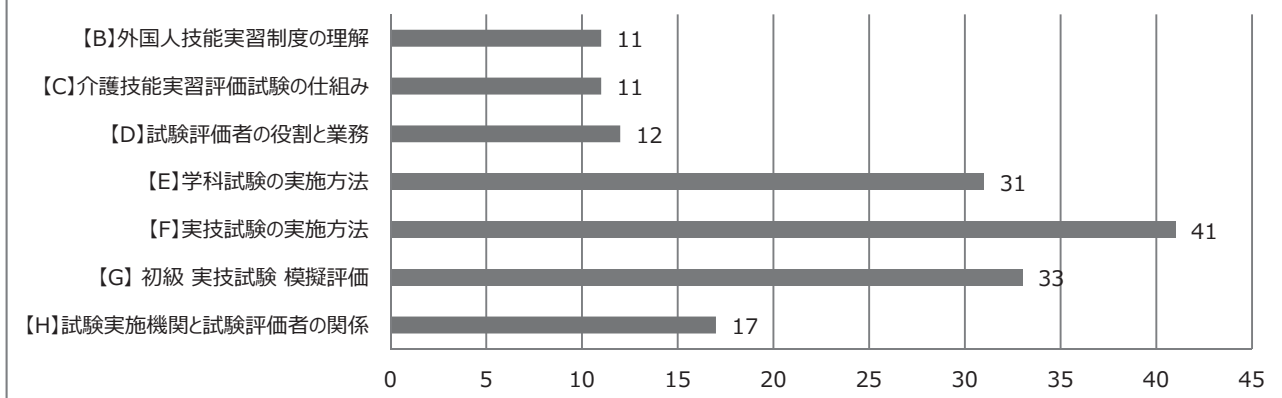
集合講習と比較して、内容の理解が深まったと回答した人は70名中48名（68.6%）であり、特に理解が深まったカテゴリは、「実技試験の実施方法」「初級 実技試験 模擬評価」「学科試験の実施方法」であった。理解が深まった理由としては、「具体的イメージがついた」「復習が可能である」という意見が寄せられた。

また、「集合講習のほうが分かりやすかった」と回答した5名の意見としては、「外国人技能実習制度の理解」が集合講習のほうが分かりやすかったとしており、特にテキストに掲載される資料は国が示している説明資料の場合が多いことため、WEB上では見づらかったという声がある。

集合講習と比較して、内容の理解は深まりましたか



③ ②で「集合講習より理解が深まった」と回答した方は、具体的にどのカテゴリーが分かりやすかったですか

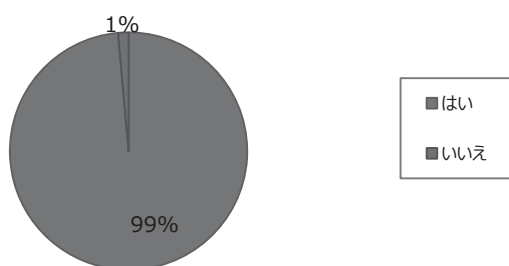


③自己学習について

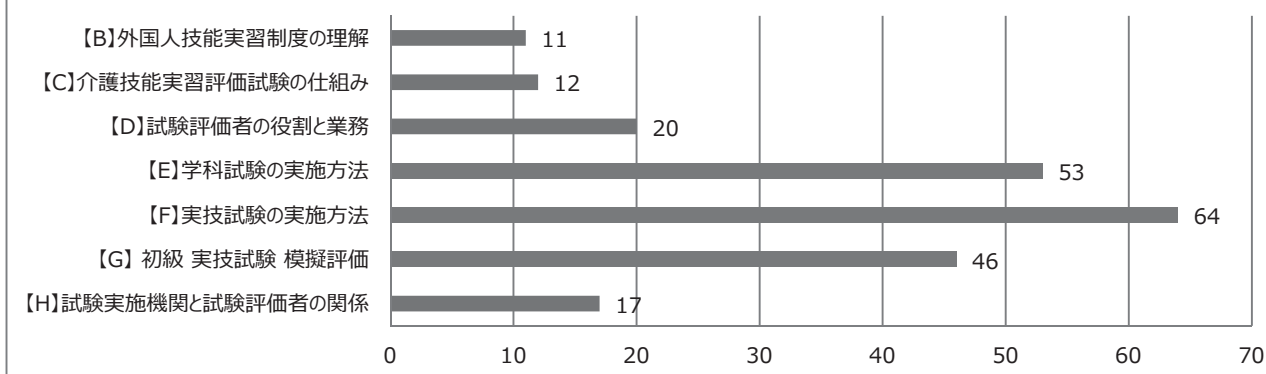
WEB 支援ツールは何度も視聴することが可能であることから、70 名中 69 名（98.6%）が自己学習の手助けになると回答している。また、「いいえ」と回答した受講者の理由も「資料で確認可能なため、WEB 支援ツールでは確認したいところのみできると便利」という回答であったことから、WEB での学習自体は自己学習にとって有効であることが明らかである。

また、自己学習として繰り返し確認したいカテゴリは「実技試験の実施方法」「学科試験の実施方法」「初級 実技試験 模擬評価」であり、自己学習を行うタイミングとして、70 名中 65 名（92.9%）は「実際に試験評価に行く前に確認として利用」したいと回答している。

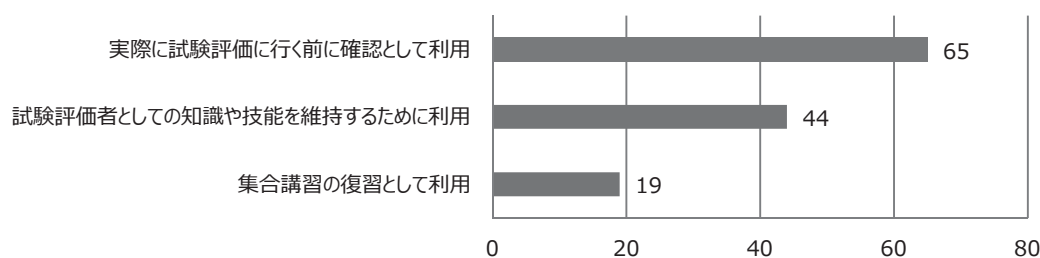
⑤本WEBツールでは何度も繰り返し動画を視聴することができますが、自己学習の手助けになるといいますか



どのカテゴリーが特に自己学習として繰り返し確認したいですか



本WEBツールを自己学習として利用する際、どのような目的で利用しますか

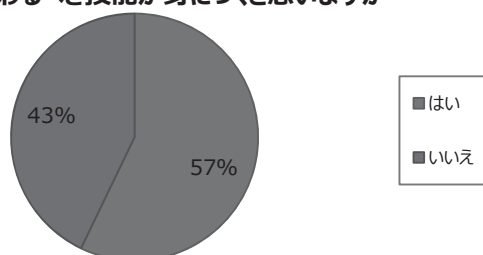


集合講習とWEB支援ツールでは内容に差はないものの、集合講習では「集中して受講できる」「スタッフがそばにいるため質問ができる」等の意見が多く、WEB支援ツールのほうがよいと回答したのは、「復習に活用できる」「いつでもどこでも実施可能である」が挙げられた。

④その他内容について

集合講習とWEB支援ツールの両方を経験した試験評価者に「本WEB支援ツールのみの学習でも試験評価者として備わるべき技能が身につくと思うか」と尋ねたところ、「はい」と回答したのは70名中40名(57.1%)で、30名(42.9%)は「いいえ」と回答している。「いいえ」の理由として多いのは、集合講習のほうが意識が高まる、WEBはフォローアップとして活用したいという意見であった。

⑪本WEBツールのみの学習でも試験評価者として備わるべき技能が身につくと思いますか



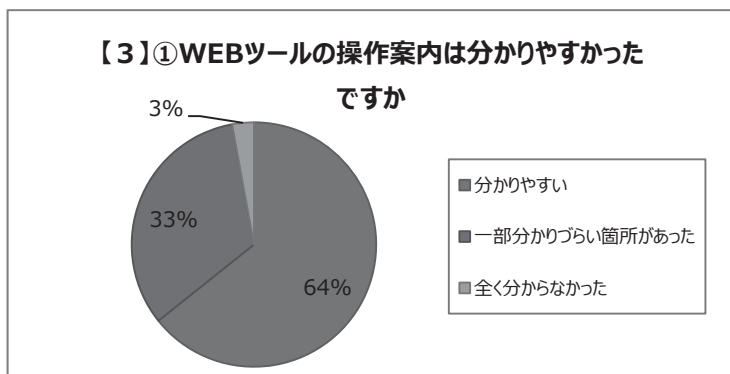
その他、映像に関して、WEB支援ツールの使用感についても確認したが、「映像をキレイにしてほしい」「音量を一定にしてほしい」という意見が多く、この部分についてはシステム上の課題として今後検討が必要なところである。

視聴いただいた映像について「〇〇は再現映像で確認したい」等、ご意見があれば教えてください。(回答者数 26 名)

内容	人数
映像を綺麗に、音量を一定にしてほしい	12
事例が更にほしい	5
講師映像は不要	2
マニュアルが別でほしい	2
分かりやすかった	4
その他	1

【3】③実際に WEB ツールを使ってみて困ったことはありましたか。

内容	人数
システム自体が分かりにくい	12
システム操作に迷った	5
映像が見にくい、音が一定でない	2
ログインに迷った	2
その他	1



⑤閲覧数の多かった動画について

アンケート回答者がすべての動画を閲覧しているわけではないものの、閲覧数の多かった動画は以下のとおりである。「はじめに」は WEB 支援ツールの説明資料であるため閲覧数は多くなるが、ほとんどは【G】「初級 実技試験 模擬評価」の部分であった。評価結果の提出を求めている「座位での上衣の着脱の介助」と「車いすでの移動の介助」は何度も見ていることがわかる。【B】「外国人技能実習制度の理解」の「我が国の高齢化の状況」は、集合講習にはなく、今回 WEB 支援ツールで新たに追加した部分である。

<閲覧数が多かった動画>

	大カテゴリ名	中カテゴリ名	クリップ名	閲覧数
1	【G】初級 実技試験 模擬評価	【2】STEP2	07_初級 実技試験 模擬評価 結果提出	197
2	【G】初級 実技試験 模擬評価	【2】STEP2	01_STEP2 を始める前に	169
3	【A】はじめに	【1】はじめに	01_資料：はじめに	143
4	【G】初級 実技試験 模擬評価	【2】STEP2	02_座位での上衣の着脱の介助	134
5	【G】初級 実技試験 模擬評価	【1】STEP1	01_STEP1 を始める前に	132
6	【B】外国人技能実習制度の理解	【1】我が国と世界の高齢化の状況	01_我が国の高齢化の状況	130
7	【A】はじめに	【1】はじめに	02_資料：WEB 支援ツールの構成	128
8	【G】初級 実技試験 模擬評価	【2】STEP2	03_車いすでの移動の介助	126
9	アンケート	アンケート	アンケートへの回答をお願いします<第2弾>	119
10	【G】初級 実技試験 模擬評価	【2】STEP2	04_事故時の対応 ※判断等試験	114

逆に、閲覧数の少なかった部分については、【D】試験評価者の役割と業務に集中した。この【D】の部分はすべてを映像化したことから、1度見ればイメージがついたと思われる。

<閲覧数が少なかった動画>

	大カテゴリ名	中カテゴリ名	クリップ名	閲覧数
1	【H】試験実施機関と試験評価者の関係	01_試験評価者の登録と任命	03_業務委託料と旅費	8
2	【D】試験評価者の役割と業務	【3】試験当日の業務について	09_挨拶・退出	81
3	【D】試験評価者の役割と業務	【1】試験評価者に求められる役割と倫理観	03_受検者への接し方	84
3	【D】試験評価者の役割と業務	【3】試験当日の業務について	04_技能実習履歴証明書の確認	84
3	【D】試験評価者の役割と業務	【3】試験当日の業務について	07_受検者と挨拶（技能実習指導員）との挨拶、受検者の確認	84
6	【C】介護技能実習評価試験の仕組み	【3】実技試験	03_合格基準、実施方法	85
6	【D】試験評価者の役割と業務	【1】試験評価者に求められる役割と倫理観	02_試験評価者として順守すること	85
6	【D】試験評価者の役割と業務	【2】試験前の業務について	03_事前の日程調整について	85
6	【E】学科試験の実施方法	【1】学科試験	03_中止事項	85
10	【D】試験評価者の役割と業務	【3】試験当日の業務について	06_学科試験場所等の確認	86
10	【D】試験評価者の役割と業務	【3】試験当日の業務について	02_窓口担当者との挨拶	86
10	【D】試験評価者の役割と業務	【3】試験当日の業務について	03_試験キットの確認	86
10	【D】試験評価者の役割と業務	【3】試験当日の業務について	08_試験実施報告書の作成	86

（４）再現動画による模擬評価の結果

「実技試験の評価方法」では、集合講習と同様、評価の方法に関する動画を視聴した後、試験評価者の目線で撮影した2つの試験課題について模擬評価を行い、試験評価者間の評価結果が均質に得られているかどうかの検証を行った。

試験課題は集合講習時と同一であるが、集合講習の際の検証結果に基づき、映像の内容や試験評価者の目線、シナリオ等について修正を行ったため、集合講習の際の映像とは異なるものを用いることとなった。

① 座位での上衣の着脱の介助

前回の試験評価者による評価結果のブレ（差異）を抑制するため、模擬評価の前に「Part 1 評価基準の考え方」として、姿勢の確認方法やどこまで声かけをしていたら「できた」と評価するかについて解説する動画を作成することとした。

しかしながら、前回評価結果にブレ（差異）が生じた「5 安定し安楽な姿勢の保持」と「6 衣服の着脱②」の項目については、今回もブレ（差異）が生じたことから、その要因について検討を行った。

	1	2	3	4	5	6		7	8		9
	体調の確認	介助の説明と同意	衣類の選択	プライバシーへの配慮	安定し安楽な姿勢の保持	衣服の着脱①	衣服の着脱②	衣服のしわやたるみの確認	利用者への確認①	利用者への確認②	報告
○	63	64	64	64	59	63	60	64	64	61	64
×	1	0	0	0	5	1	4	0	0	3	0
	割合										
○	98.4%	100.0%	100.0%	100.0%	92.2%	98.4%	93.8%	100.0%	100.0%	95.3%	100.0%
×	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	7.8%	1.6%	6.3%	0.0%	0.0%	4.7%	0.0%

②試験課題4「車いすでの移動の介助」

前回の差異をおさえるため、模擬評価の前に「Part 1 評価基準の考え方」ということで、姿勢の確認方法やどこまで声かけをしていたら「できた」と評価するかについて解説する動画を作成した。前回差異があったところは「3安全の確認③」と「4移動の介助①」の項目であったが、今回どちらも差異がでて、さらに「3安全の確認②」も差異が生じた。

参考) 3. 安全の確認②

利用者の手や腕がアームレスト（アームサポート）や大腿部に置かれている（大車輪に巻き込まれないようにしている）

	1	2	3			4			5	6
	体調の確認	介助の説明と同意	安全の確認①	安全の確認②	安全の確認③	移動の介助①	移動の介助②	移動の介助③	利用者への確認	報告
○	61	64	62	58	59	59	63	63	62	63
×	3	0	2	6	5	5	1	1	2	1
	割合									
○	95.3%	100.0%	96.9%	90.6%	92.2%	92.2%	98.4%	98.4%	96.9%	98.4%
×	4.7%	0.0%	3.1%	9.4%	7.8%	7.8%	1.6%	1.6%	3.1%	1.6%

前回と同様、差異の出る箇所と理由は同様であり、試験評価者個人の資質による差異というよりは、評価基準の判断材料が不明瞭なために起きた差異と言える。試験実施機関は判断基準をさらに精査し、試験評価者への伝え方も含め、検討していかなければならない。

(5) 検証結果から得られた課題

本検証の目的は、「①集合講習と比較した際の WEB 支援ツールの有効性」と「②試験評価者へのフォローアップとしての WEB 支援ツールの検討」であったが、②のフォローアップとしての WEB 支援ツールについては、アンケート結果からも有効性が高いことは明らかである。特に、「自己学習の手助けになると思いますか」という問いに対してはほぼ 100%が「はい」と回答しており、試験評価に行く前に確認することで、試験評価者の不安を軽減し、評価手法の再確認を行うことが可能であろう。

一方で、①の集合講習と比較した際の WEB 支援ツールの有効性については、43%が「本 WEB ツールのみでの学習では試験評価者として備わるべき技能が身につかない」と回答していることから、WEB 支援ツールの構成や内容はさらに精査が必要である。特に、実技試験の評価については、試験評価者が自らの価値観や経験則によって評価するのではなく、評価基準及び判断するうえでの留意事項を正しく理解し評価できるよう、伝え方は工夫が必要である。また、一方的に伝えるのではなく、伝えた内容が正しく理解されたかどうかあわせて確認が必要である。今回は、評価結果を提出してもらったが、その回答あわせは行っておらず、フィードバックする仕組みも検討される。